

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立本羽田保育園		
事業所連絡先	〒	144-0044	
	所在地	東京都大田区本羽田3-17-20-108	
	TEL	03-3745-0550	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	18日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	18日
訪問調査日	2025年	8月	21日
評価合議日	2025年	9月	4日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念） 1) 子ども大人もほっとでき、支えになれる保育園 （方針） 1) 一人一人の子どもが、いかなる差別もなく愛され、あるがままの自分であることを認められる保育をします。 2) 安全で清潔な環境を整え、心身共に健やかに成長できるような保育をします。 3) 身近な自然とのかかわりを通じて、豊かな心を育てる保育をします。 4) 子どもが自発的、意欲的に生活できる保育園づくりをめざします。 5) 保護者の方が思いを込めたお子さんの名前を大切にしていきます。 6) 保護者の方とより良い関係を築きながら、子育てに楽しさやうれしさを感じられる支援をします。 7) 地域に向けて、保育の専門性を活かした情報の発信をするとともに、地域からの支援を受けて繋がりを広げていきます。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として現状や経験に甘んじることなく感性を磨き、細やかな実践と確かな理論を持って保育にあたり、自己の人間性への謙虚な反省と向上のため、努力する姿勢を忘れないでほしい。</li> <li>・子どもや保護者、地域の方々など様々な方とかかわりながら、職員自身が輝き、愛情と誠意をもって意欲的に職務に取り組んでほしい。</li> <li>・公立保育園の職員として、自園のみならず近隣の保育施設や子育て家庭など、地域の子育て力向上のため専門性を活かし広い視野を持って職務に取り組んでほしい。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は人的な環境ということ踏まえ、その存在そのものが子どもの発達に影響を与えるということを自覚し、常に豊かな感性と向上心を持って子どもにかかわってほしい。</li> <li>・職員はその専門性を活かし、子どもや保護者を支援するとともに、皆が連携を取り合って子どもの最善の利益を保証するよう努めてほしい。</li> <li>・職員は公務員という立場を忘れずに、様々な方と協力し合って地域全体で子どもを育てるといった感覚を持ってほしい。</li> </ul>

調査対象	保育園に通っている園児102世帯116人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	116		
利用者家族総数(世帯)	102		
共通評価項目による調査対象者数	102		
共通評価項目による調査の有効回答者数	60		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	58.8		

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」63.3%、「満足」33.3%の計96.6%であった。自由意見では、「子どもの成長に合わせて対応し、バランスよい食事を提供いただいている。」「園庭があるので、草木、昆虫にも触れる機会があり、いい環境で保育園生活を送れていると思います。」「絵本コーナーや、掲示板など改善を積み重ねられていて本当に良い保育園に巡りあえて幸せです。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」「苦情窓口」などの17問中16問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	60	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもの自主性を重んじて活動を考えてくれています」「できることが増えてきています」「保育園に通うようになってから、できることや喋る言葉がたくさん増えました」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	60	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「自宅でも保育園で覚えてきた歌や手ぶりなどを見せてくれています」「パズルなど子どもの興味に合わせている」「子どもが興味をそそくことがたくさんあると思います」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	3	1	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「保育園で出るのは食べてくれているので助かっています」「家で食べないものも給食では食べています。栄養士の先生のことも好きだと言っています」「家ではカレーやシチューを食べなかつたりしますが、保育園だと味が好みなのかおかわりなどもしているみたいで子どもの好きな味なのだと思います」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	57	2	1	0
「はい」の回答は95.0%、「どちらともいえない」の回答は3.3%、「いいえ」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「お散歩や園庭での遊び、昆虫や亀の飼育など工夫してくださっています」「園庭があり、近所の公園にも自然が多い」という声が寄せられている一方、「暑すぎるせいもありますが公園まで行けると嬉しいです」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	53	6	0	1
「はい」の回答は88.3%、「どちらともいえない」の回答は10.0%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「いつも快く対応していただいています」「連絡すればすんなりと受け入れてくれている」「臨機応変に対応してくれている」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	56	3	1	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は5.0%、「いいえ」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「月一回必ず避難訓練を実施している」という声が寄せられている一方、「建物が古くて少し心配」という意見が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	53	6	0	1
「はい」の回答は88.3%、「どちらともいえない」の回答は10.0%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「保護者会と保育参観は、可能であれば別の月だにより気兼ねなく調整しやすいです」「行事が少ないです」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	56	4	0	0
「はい」の回答は93.3%、「どちらともいえない」の回答は6.7%であった。 自由意見では、「園長先生や先生たちにはいろいろと気にかけていただいたり相談しやすい環境です」「保護者会などで様子を聞けています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	4	0	1
「はい」の回答は91.7%、「どちらともいえない」の回答は6.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「ごみが落ちているのを見たことがないです」「施設が古いためある程度限界はあると思うが、清潔が保たれていると思う」という声が寄せられている一方、「とても清潔だが建物自体の老朽化は気になる」という意見が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	59	1	0	0
「はい」の回答は98.3%、「どちらともいえない」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「親しみやすく接してくださるので安心できます」「保護者や子どもたちに接する時の対応は見ても好感が持てます」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	60	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「子どもが体調を崩した時に先生が面倒をみてくれて子どもも不安がらなかったようで助かりました」「子どもが怪我をした時に先生が付き添って病院を受診して下さった」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	12	0	1
「はい」の回答は78.3%、「どちらともいえない」の回答は20.0%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「まだいさかいの経験はない」「すべて報告してもらえると」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	58	1	0	1
「はい」の回答は96.7%、「どちらともいえない」の回答は1.7%、「無回答・非該当」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「子どものペースに合わせて保育していただいています」「一人一人の様子を見ながら対応してくれていると感じます」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	57	3	0	0
「はい」の回答は95.0%、「どちらともいえない」の回答は5.0%であった。 自由意見では、「気になったことはありません。気遣ってもらっているためでしょうか」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	57	1	2	0
「はい」の回答は95.0%、「どちらともいえない」の回答は1.7%、「いいえ」の回答は3.3%であった。 自由意見では、「年度当初に今年はこの目標で行きますと共有してくださるのでわかりやすいです」「保護者会の説明が丁寧」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	57	2	1	0
「はい」の回答は95.0%、「どちらともいえない」の回答は3.3%、「いいえ」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「満足です」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	51	8	1	0
「はい」の回答は85.0%、「どちらともいえない」の回答は13.3%、「いいえ」の回答は1.7%であった。 自由意見では、「面談時に教えて下さいました」「貼り紙があります」という声が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	園の理念や方針を明示して職員や保護者の理解を深めている 年度当初の職員会議では、理念や方針、園が目指していることなどについて全職員で読み合わせを行い確認している。転入職員、新人職員については初日のオリエンテーションでも説明している。また、園長は理念や方針、園が目指していることなどについて年に数回触れ、職員が迷った時に「目的は何か」「子どもにとってどうか」に立ち返って考えられるように助言している。入園オリエンテーションでは、保護者に向けて重要事項説明書を用いて詳しく説明している。入園後は、年度当初の保護者会でパワーポイントなどを活用し、わかりやすく説明している。 経営層は組織として目指すことを伝えてリーダーとしての役割を果たしている 経営層は、理念や基本方針に基づく取組を全職員で進めるにあたり、チームとしての職員間の連携やお互いを思いやる気持ちの大切さ、視野を広く持つことの大切さ、働きやすい環境づくりについて職員に伝え、職員への労いと感謝の気持ちを常に伝えるように心がけることで、より良い風土作りの醸成に繋げている。また、理念や園目標など機会を捉えて職員に伝え、コミュニケーションを大切に、保育観を共有しながら子どもを真ん中にした保育を一緒に考え実現できるよう取り組み、リーダーシップを発揮している。 会議体系が整えられ、会議内容は職員間で共有し、保護者へも的確に伝えられている 重要な案件の検討や決定の手順については、決定事項の流れに沿って決定している。全職員の意見を反映するために、事前に議題を提示しクラス打ち合わせや職員会議などに望むようにしている。また、緊急な事案についてはリーダー会を招集し検討している。非常勤職員打ち合わせやリーダー会など、職層ごとの打ち合わせを定例化し、情報共有するとともに、職員一人一人が意見を出しやすいようにしている。重要な案件の保護者への周知については、掲示に加え口頭で経緯や根拠を示し伝えている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者アンケートや職員面談等で意向などを把握し、検討課題を設定し対応している</p> <p>利用者の意向を確認するために、保護者会や保護者参加の行事、保育参観、地域向け見学会の後にアンケートを実施したり、口頭で情報を収集したりしてニーズを把握している。玄関に意見箱を設置し、意見や要望を記入して投函できるようにしている。職員の意向については、職員アンケート、各パート・クラス打合せや面談、職員会議、非常勤職員打合せ、リーダー会等で把握し、その内容から園運営にどのように反映していくかを検討している。個別で行っている職員面談は、年2~3回程度実施し、業務や研修に関する本人の課題や意向を確認している。</p> <p>地域の福祉ニーズを把握するため、近隣の関係機関と連携し情報収集に努めている</p> <p>地域の福祉の現状について情報を収集するために、地区別園長会議や地域保育施設会議に参加し、情報交換を行うなどしてニーズを把握している。例えば直近では、保健師や子ども家庭支援センター職員との懇談会で、地域の子育て世帯の状況や健診時に多い相談内容などについて把握している。各ニーズや現状を踏まえ、職員の専門性の維持向上、安全・安心な環境の整備、地域の保育所等の連携、在宅子育て家庭への支援等の課題を抽出している。</p> <p>区の方針を踏まえて園で計画を策定し、全職員で計画を推進していく体制を整えている</p> <p>区の理念や計画等を踏まえ、園の現状に沿った中期計画書を策定し、中期計画を踏まえて具体的な単年度計画を策定している。中期的な視点が入った重点計画として、安心、安全な保育園づくり・保育内容の充実、質の向上・区内保育施設等との連携・誰もが働きやすい職場づくりを挙げ、策定した計画を推進するためPTと係を設け、それぞれが役割分担を担い、計画・実施・振り返りを行い、取組と実施状況、反省と残された課題を検討している。職員一人一人が園全体の課題を自分ごととして考えられるように計画を推進していく体制を整えている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリー3の講評

#### 福祉サービスを提供する者の責務として、規範・倫理などの理解と遵守に取り組んでいる

守るべき法、規範、倫理などについては区の様々な規則が制定されており、職員の心得などを配布し、年度当初の職員会議で口頭及び書面を使用し周知している。園内研修では、人権を大切にしたい保育を行うために「こころを育てる大田の保育」の読み合わせを行い、言葉の意味を理解し文章を読み解きながら語り合う時間を設けている。また、園が目指す保育を実現するために自己評価を行っている。区の職員・専門職として守るべき内容について、年度当初の確認のみならず、園内研修・保育の自己評価の活用等を通じて職員が深く理解できるように努めている。

#### 苦情解決や虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている

苦情対応の仕組みについては、苦情解決責任者や、受け付け担当者、オンブズマン制度などを重要事項説明書に掲載し、入園前のオリエンテーションで説明している。虐待防止に向けては、子育て支援の充実が大切である考えのもと、保育士の丁寧なかかわりに努め、保育時間は保護者の要望に応じている。日々の登降園時に子どもに関する情報交換を丁寧に行い、子どもの成長を喜ぶ気持ち、悩みを伝え合っている。何かあった時にすぐに対応ができるよう保育園で気になる情報は子ども家庭支援センターに伝え、日頃から連絡を密にとっている。

#### 保育の専門性を活かして地域交流及び地域支援の充実に取り組んでいる

保育の専門性を活かして、育児相談、緊急一時保育、園庭開放事業、育児応援券事業をしている。また、地域向け情報紙「わんぱく」を発行し配布及び掲示をしている。公立保育園2園合同で近隣の集会所を使用し、子育て支援「ひだまり」を行っている。手遊びやパネルシアター、保育士・栄養士の育児相談等を行っている。地域の保育施設長が集まる地域会議に参加し、共通課題の解決に向けて情報交換を行っている。透明性の高い組織運営のために福祉サービス第三者評価を定期的受審し、結果を公表している。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>子どもと職員の命を守るに最大限配慮し、安全確保と徹底を進めている</p> <p>子どもと職員の命と健康を守ること、子どもの最善の利益を守ることが大切という考えのもと、それを阻害する恐れのあるリスクについて洗い出し、対策を講じマニュアルに定めている。大規模災害対策、防災・防犯対策を当該園の優先順位の高いリスクとし、近隣の避難所や土嚢配布所、公衆電話の場所等、災害想定を記した災害マップを作成、掲示している。災害発生直後にできる限り落ち着いて誰でも対応できるように、各種書類をまとめ、職員が目につく場所に保管している。</p> <p>大規模災害に備え、地域の特性を踏まえた事業継続計画を作成している</p> <p>大規模災害に備え、子どもと職員の命を守り、発災後も保育園運営の継続を図ることを目的として地域の特性を踏まえたBCPを作成している。大規模災害時を想定した福祉避難所開設に向けての準備が整えられ、職員はマニュアルに沿って開設訓練を行っている。防災・防犯PTや安全対策PTのメンバーには、非常勤職員も加わり様々な視点から対策ができるよう努めている。CPR訓練・AED訓練・アレルギー対応訓練などは、非常勤も含む全職員が参加している。毎月の避難訓練についても正規職員以外に、非常勤、支援員、補助員なども参加している。</p> <p>園で取り扱う情報は、規程・ルールを定め、規則に沿って管理している</p> <p>園で取り扱う情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、年度当初の職員会議で説明し確認している。各情報、文書の保存年数は決まっており、それに従い保存、廃棄している。子どもや保護者の情報は各ファイルに整理し、鍵のかかる書庫で保管している。パソコンとタブレットは、各職員がパスワード設定と顔認証システムで使用している。個人情報については、大田区情報公開条例に基づき対応している。保護者には重要事項説明書でプライバシーポリシーについて知らせ、個人情報の扱いについて説明した後、同意書もらっている。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

#### カテゴリー5の講評

##### 組織の能力向上を図るためのシステムを整え、適材適所の配置が進められている

保育園の正規職員の採用については、区の採用・配置システムのもとで安定した人員確保を実施している。採用希望者には、区で園見学や説明会を実施し、区立保育園の役割や保育園で働く楽しさややりがいを伝えている。「大田区保育園人材育成指針」に基づき人材育成基本方針及び人事評価制度が定められ、在職年数や役職ごとに保育士に求められる資質等が明記されており、職員に書面で周知している。職員の配置・異動は、各職員のキャリアデザイン等に応じた希望を踏まえて行っている。

##### 職員の意向把握を行い、研修計画を作成し能力の向上に取り組んでいる

大田区人材育成指針により人材育成評価制度が定められており、園長と職員との個別面談を年2回実施し、キャリアデザインシートを活用しながら職員自身の将来像と必要な経験・研修を共有している。園内研修は、様々な課題に対応できるように、非常勤保育士を含め全職員で保育の対話ができる時間を設けている。園の課題については主査・リーダーを中心にリーダー会の中でテーマを決め園内研修で学んでいる。年齢層、職層関係なく、多様な意見を取り入れ、組織的に学び合える風土を築いている。

##### 園内の様々な活動を効果的に働かせ、学びとチームワークの促進に取り組んでいる

職員間のチームワークは保育に大きく影響する考えのもと、良好な人間関係作りのために、園内研修を行う前にアイスブレイクとして短いゲームなどを行い、楽しんでから園内研修の本題に入ることで研修に参加する職員の緊張を和らげ、意見交換がしやすい環境を構築している。リーダー会を中心として園全体の課題解決に向けて取り組んでいる。各PT、各係はそれぞれ具体的な計画をたてて活動することで組織全体の保育の質の向上や業務の改善に活かしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

地域向けの子育て支援イベントへの集客が少ないことを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、保育園のアピール方法の見直しを掲げた。  
 昨年度の重点施策として「地域向け情報誌の内容見直し」「見学会参加者へのアピール方法の検討」に取り組んだ。  
 その結果、重点目標に掲げたことが70%達成した。  
 70%達成した要因として考えられることは、地域向け情報誌は、ポスター形式からA4サイズ三つ折りのパンフレット式に変えたことで配布数が増えたこと、見学会後の時間に手遊びやパネルシアターを行ったことで保育園の様子や楽しさを知ってもらえかけたこと、明らかになっている。  
 こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、「地域向け情報誌の内容充実」「育児応援券や園庭開放利用者が増えるためのアピール方法をさらに検討していく」取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

地域向けの子育て支援イベントへの集客が少ないことを課題とし、保育園のアピール方法の見直しに取り組み、パンフレットの配布数の増加や見学会後の時間を有効に活用してアピールできたことは大きな成果といえる。検証の結果、今年度に向けて地域向け情報誌の内容充実や育児応援券や園庭開放利用者が増えるためのアピール方法をさらに検討していく取組に発展させているので、その成果とともに効果の検証に期待したい。今後もより具体的な目標を定め、PDCAサイクルの取組が進められるよう期待している。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもの人権を尊重した保育についての認識が職員によってあいまいな部分があることを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、子どもの人権を尊重した保育について学び、実践することを掲げた。  
 昨年度の重点施策として、園内研修で子どもの人権について学ぶこと、チェックリストを使って、自分の保育を振り返ることに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことの50%達成となった。その原因として考えられることは、不適切な保育について理解は深まったが、人権を尊重した保育を行うための振り返りについては不十分だったことを明らかにしている。一方でチェックリストは全職員が行い、自身の保育について振り返ることができた。  
 こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、「こころを育てる大田の保育～保育内容の自己評価～」を活用して、自身の保育を振り返ること、園内研修で保育や子どもについてたくさん対話し、子どもの人権についての学びをさらに深め実践する取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもの人権を尊重した保育についての認識が職員によってあいまいな部分があることを重要課題として捉え、昨年度の重点施策として、園内研修で子どもの人権について学ぶこと、チェックリストを使って、自分の保育を振り返ることに取り組んだことは大きく評価したい。一方で、目標が「子どもの人権を尊重した保育について学び、実践すること」に対して50%の達成としているが、この結果の根拠については、更なる意識をもって保育実践につなげたいことから50%となっている。目標値については、指標化することで組織的に結果を振り返る際に目標が達成できたかどうかわかりやすくなる。そのため、定性的な目標よりも定量的な目標の方が具体的な計画も立てやすく、評価もしやすくなる。定量的な目標設定や目標に対する期限設定を行い、PDCAサイクルの取組が進められるよう期待している。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>希望者が入手できる、区のホームページやしおりに園の情報を掲載している</p> <p>利用希望者などが入手しやすい媒体で園の情報を入手できるように、大田区のホームページでは入園等の手続き、空き情報、緊急一時保育、保育園紹介などの情報を掲載している。また、保育園の門前にケースを設置し、入園のしおりや地域子育て支援情報誌を自由に入手できるようにしている。さらに、掲示板には地域向けに保健だよりや栄養だより、地域子育て支援イベントのチラシなどを掲示している。ホームページの更新時期や活用については更なる充実を期待したい。外国籍の方向けに外国語表記の重要事項説明書を用意し、必要に応じて使用している。</p> <p>近隣の関係機関などに園の情報を提供し、保育園に足を運んでもらえる機会を作っている</p> <p>地域向け情報誌「わんぱく」を近隣の児童館や出張所、図書館、嘱託医に置いてもらっている。地域子育てイベントを実施するときはポスターを作成し、前文の施設などにも掲示してもらっている。イベントに参加者には、育児応援券や園庭開放事業などを宣伝し、実際に保育園に足を運んでもらう機会を作っている。利用希望者に向け、年間で計画し、見学会を実施している。見学会では、各年齢に合わせた環境設定や、保育内容などをわかりやすく説明しながら園舎内を案内している。</p> <p>見学会を開催し、園の特徴を丁寧に伝えている</p> <p>見学会では、保育園の保育理念、保育方針、園目標などのほかに、各クラスの保育の特徴や子どもたちが好きな遊び、飼育物、栽培物などについて具体的に環境を見てもらいながら紹介している。また、子どもの人権に配慮した取組については、目隠しや衝立を使用した環境など具体的な場面を見てもらいながら伝えている。見学会後のお楽しみとして、手遊びやふれあい遊びの紹介・紙芝居やパネルシアターを行い、参加した親子から好評を得ている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園前オリエンテーションを土曜日に行い園生活に必要な重要事項を説明している</p> <p>入園が決まった家庭には事前に調査票と重要事項説明書を渡し、保護者の都合に合わせて面接日を設定すると共に、保護者が参加しやすいよう土曜日にオリエンテーションを行っている。重要事項説明書の内容は、パワーポイントを使用してわかりやすい説明に努め、希望に応じてオリエンテーション後に部屋の見学や使い方なども説明し、保護者の安心に繋げている。質問には電話なども含めいつでも答えられるようにし、重要事項や個人情報の利用目的説明後には、「区立保育園重要事項説明書等に関する同意書」に署名を貰い同意の確認を行っている。</p> <p>子どもや家庭の状況を個別面接で丁寧に把握し職員共有のもと保育配慮に繋げている</p> <p>入園内定後に個別面接を行い、事前に記入して貰った書類をもとに健康面や食事・睡眠・排泄などの生活面、好きな遊びや癖など子どもの育ちに関する事、健康に関する事や配慮を要する事項、保護者の就労状況や家庭の状況などを丁寧に聞き取り把握している。把握した内容は児童調査票に記録し児童票にて子どもの育ちを書式化し記録保管している。保護者の事情や要望、個別に配慮を要すること、全体共有が必要な面接内容は「新入園児面接報告」に記録し職員会議で周知を図り、入園後の保育配慮に繋げている。</p> <p>環境変化に伴う子どもや保護者の不安を考慮し個々に合わせた支援を行っている</p> <p>入園日は子どもと保護者が一緒に過ごし食事を取ることで園の様子を知って貰う機会にし保護者の安心に繋げている。入園直後の子どもの不安な気持ち考慮し保護者の就労状況と子どもの様子を踏まえて個々に合わせた保育時間を設定し、子どもが無理なく慣れていけるよう配慮している。転園・退園・卒園時には保護者とのコミュニケーションを大切にし、わからないことや不安なことがある場合には個々の状況に応じ、関係機関の紹介や継続した支援ができることを伝えている。就労に際して保育所児童保育要録を就学先に送付し子どもの育ちの継続を図っている。</p>		

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
<b>サブカテゴリー3の講評</b>			
<b>子どもの様子を園で定めた書式を用いて記録し、育ちを支える保育に繋げている</b> 日々の子どもの心身状況や生活状況を1、2歳児は連絡帳に記載して家庭と共有できるようにし、子どもの姿、成長発達の具体的な様子は日々保育日誌に記録している。子ども一人一人の様子を職員間で共有して保育の手立てを検討し、子どもの成長発達を踏まえて指導計画を作成している。特別な支援を要する子どもについては個別日誌に様子を記録し個別指導計画を作成して子どもの特性に応じた保育に繋げている。個々の成長発達については1、2歳は月齢、3～5歳は期ごとに担任が児童票に記録している。健康状態は健康カード、児童票に記録している。			
<b>全体的な計画をもとに長期、短期の指導計画を作成し保育実践を行っている</b> 園は「こころを育てる大田の保育」を基本に「大田区立保育園の全体的な計画」を踏まえて自園の保育のもととなる「本羽田保育園の全体的な計画」を作成している。各年齢、クラスで大切にしたいことを園全体で共有し、養護・教育の各領域を押さえ、年間指導計画を作成している。月案、週案、個別月案と細分化し子どもの実態に即した具体的な保育内容や配慮、環境について計画を立てている。子どもの様子とともに保育士の関わりや配慮したことを記録に残し、自己評価、振り返りを行って次の計画に反映させている。			
<b>子どもや家庭の様子を職員間で共有し、個々に応じた保育配慮に繋げている</b> 職員会議では、各クラスの保育状況や次月の保育、子どもの様子について報告を行い職員間で共有できるようにしている。会議に参加できなかった職員は、必ず会議録を読んで確認する仕組みを作り、記録類は事務所の書庫に保管し、必要な時に職員が閲覧できるようにしている。日々の子どもや保護者に関する情報は、園長報告と共に朝礼ノートに記録し、職員間で情報を共有して保育に反映できるようにしている。クラス打ち合わせでは、子どもに関わる職員皆で一人一人の子どもの様子を話し合い援助の仕方の確認や個々に応じた保育配慮に繋げている。			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報保護の取り扱いルールを定め、子どものプライバシーが守られるようにしている</p> <p>個人情報の取り扱いは公立保育園として決められたルールに則り、職員は年度当初に「プライバシーポリシー」の読み合わせを行い、署名している。個人情報は鍵のかかる書庫にて管理し、持ち出す際には使用簿に記入し返却時に確認・サインをしている。入園時に個人情報の取り扱いについて保護者に説明し、同意の確認を取っているが他機関とやり取りを要する際にも保護者に説明し同意を得てから進めている。個々の子どもの持つ羞恥心に配慮し自尊心を傷つけないよう、また、排せつや着替えの際には外部から見えないよう環境に留意している。</p> <p>園全体で子ども一人一人を尊重する保育に取り組んでいる</p> <p>年度当初の職員会議で保育者の心得や姿勢の確認を行い、子どもや家庭の様子を全職員が共有し保育するようになっている。子ども一人一人が「愛されている」という実感が持てる関わりができるよう、園内研修で子どもの人権や園の理念・目標について話し合い大切にしていくことの共有を図っている。「こころを育てる大田の保育」をもとに自己評価を行い、自身の保育の振り返りや関わりで気になることについては伝え合う関係性が築けるようにしている。「子どもにとって」という視点で保育を考え、子ども一人一人を尊重する保育に取り組んでいる。</p> <p>虐待防止や育児困難家庭に対する支援が行えるよう体制を整えている</p> <p>虐待防止や育児困難家庭に対する支援が行えるよう虐待防止マニュアルの閲覧や外部研修、園内研修などを通して職員の理解が深まるようにしている。子どもや家庭の状況については日々の会話や保護者や子どもの様子をもとに把握を行い、気になることがある場合には園長・副園長に報告し記録・観察を行うようにしている。対応方法を職員会議で共有、周知を図り、子ども家庭支援センターや児童相談所と連携し対応する体制を整えている。「虐待通告の手順」「虐待発見フローチャート」「各機関における虐待の発見から援助」をもとに対応を行っている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>適切な行動ができるよう職員は各種マニュアルを理解し、遵守しながら保育を行っている</p> <p>園では、大田区共通マニュアルを含め、保育、職員、災害、安全管理、保護者などに分けて「本羽田保育園マニュアル」を作成し、職員一人一人に配布して活用している。「本羽田保育園マニュアル」の他、行事や保護者会関係、プロジェクト等に分けてファイルし、業務の標準化を図っている。年度当初の職員会議等では、職員間で読み合わせを行い、全職員で「本羽田保育園マニュアル」の内容を確認している。変更点や検討事項がある場合は、PTメンバーで検討し変更している。</p> <p>マニュアルは全職員がいつでも見られるように共有し、見直しがされている</p> <p>「本羽田保育園マニュアル」は、職員一人一人が持っているため、疑問や迷った時などにすぐに開いて確認できるのでそれぞれが活用している。共有マニュアルや行政で統一されている事項は事務所に置き閲覧できるようにしている。マニュアルの内容は年度末に確認し、職員の振り返りや反省を活かして次年度用に更新している。年度途中でも保育課題に気づいたり、困難な事例があったりした際には、職員会で話し合い、共通確認している。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(000000)	
	評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの様子に合わせて子どもが主体的に関わり遊ぶ環境作りを行っている</p> <p>園は信頼する大人の見守りの中で、周囲の様々な人・もの・ことに子どもが興味関心を持ち、主体的に関わることで得る満足感や達成感、認められる喜びが自信や自己肯定感を育むと考えている。子どものつぶやきや視点を捉え、子どもが何に興味関心を持っているのかを考え子どもの様子に合わせた環境作りを行っている。大人も環境の一部とし、子どもの問いにすぐに答えるのではなく一緒に考えたり探したりしながら子どもが主体的に関われるようにしている。一人の子どもが見つけた遊びが更なる興味に繋がるよう環境を整え遊び込むことを大切にしている。</p> <p>子ども同士が関わり合いながら一緒に大きくなっていくことを大切にしている</p> <p>子どもが様々に関わり合い、一緒に過ごしたり遊んだりする中で互いを知り、人と関わる豊かさや楽しさが感じられるよう個々の様子に合わせた保育に努めている。異年齢で育ち合う姿を大切に異年齢保育活動「なかよしタイム」の年間計画を作成し、3～5歳の子ども3人のグループを作って園庭遊びや散歩、食事などの活動を行っている。特別な配慮を要する子どもが他の子どもと心地よく一緒に生活できるよう、安心できるスペースや好きな遊びのコーナーを設置し、皆で一緒に大きくなっていくことを大切に保育している。</p> <p>就学を見据えて様々な取組を行い小学校への円滑な接続を図っている</p> <p>園は小学校との連携を通して、子どもも保護者も安心して就学が迎えられるよう様々な取組を行っている。小学校の展覧会や学芸会を5歳児が見に行ったり1年生との交流会に参加させて貰ったりすることで小学校の雰囲気が味わえるようにしている。5歳児の保護者会では近隣小学校校長の講和を聞く機会を設け、質問に応じるなどで保護者の不安が解消できるようにしている。保育所児童保育要録や就学支援シートを作成して子どもの育ちの継続を図り、園での支援内容や配慮事項について引継ぎを行うなどの連携のもと小学校との円滑な接続を図っている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>園と家庭で子どもの様子を共有し子どもの心身の安定を図っている</p> <p>登園時には連絡帳や健康チェックカードをもとに家庭での様子や健康面を保護者と共に確認している。普段と様子が違う時には保護者から具体的に聞き取りをし、受診の様子や連絡方法などの確認をしている。聞き取った内容は連絡ノートに記入して申し送り、職員間で共有し一日の保育配慮に繋げている。1、2歳児は連絡帳を使用し3～5歳児はクラスの活動記録で毎日の活動の様子を保護者に伝えている。個別の連絡事項は連絡ノートに記入して担任以外の職員でも伝えられるようにし、家庭と園で子どもの様子を共有し子どもの心身の安定を図っている。</p> <p>自分のことが自分でできる力が育つよう基本的な生活習慣の大切さを伝えている</p> <p>各クラス年間指導計画で健康面のねらいを立て、子どもの発達に応じた援助や見守りを行い自分のことを自分でする力や基本的な生活習慣が身につくよう取り組んでいる。子どもが自分でしようとしている時には見守り、さりげなく援助することで子どもが自信をもって自分で取り組めるようにしている。生活の見通しが持てるよう各クラス年齢に応じて生活の流れをイラストや写真で掲示している。看護師や栄養士から健康や栄養、食事について話を聞く機会を設け、子どもが自分の生活や基本的な生活習慣に興味関心を持って取り組めるよう健康教育を行っている。</p> <p>子どもが安定した生活が送れるよう家庭と共に子どもの生活リズムを整えている</p> <p>朝の受け入れでは、子どもの健康状態や食事や睡眠、家庭での様子などを連絡帳や健康チェックカード、口頭でのやり取りなどで把握し、子どもの生活を24時間で捉えた家庭との連携を大切にしている。子どもの様子に合わせて無理なく園生活が送れるよう食事や午睡時間の配慮を行い、午睡を必要としない子どもには身体を休める意味を伝えて横になる場所を用意し、休息が取れるようにしている。5歳児は就学を見据えて少しずつ午睡時間を短くし、個々の子どもの様子に合わせた対応を行いながら、午睡をしない生活リズムに切り替えていけるようにしている</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性や自発性を大切に子どもの興味や関心に合わせた環境を構成している</p> <p>園は子どもの自主性や自発性は、自ら学ぶ力や問題を解決する力の基礎になると考え安心して子どもが自由に探索し、挑戦できるような環境を整えている。子どもの視点に立って子どもの興味や関心を捉え、環境を構成することに努めている。模倣遊びが盛んな頃には人形や布団、洋服、食材などを準備しまごころコーナーの充実を図っている。制作コーナーは子どもが自由に書いたり作ったりできるような様々な素材や道具を整え、満足するまで遊べるよう時間を確保することや子どもが継続して遊べる環境作りを行い子どもが遊び込むことを大切にしている。</p> <p>人と関わる楽しさや豊かさが味わえるよういろいろな集団活動を行っている</p> <p>人との関わりや社会性を育むために集団活動は大切だと考えのもと、みんなで話を聞く、簡単なルールのある遊びをする、運動会やお楽しみ会などの取組を行い友だちと関わりながら楽しく集団活動に参加することを園は大切にしている。集団活動の中で子どもが自分の想いや考えを伝え合うことを大切にし、相手の気持ちに気づき、一緒に考え取り組むことで、みんなでする楽しさや豊かさが味わえるようにしている。年齢の小さな子どもはごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを保育士と一緒に楽しみながら、友だちとの関わりが経験できるよう働きかけている。</p> <p>子どもが多様な経験を持ち、様々に表現することを大切にしている</p> <p>園は子どもが戸外でいろいろな身体を使って遊ぶことや様々な自然や事象、場所、身の回りのことに興味関心を持ち多様な経験が持てるよう指導計画を立て保育を行っている。自分が興味を持ったことを試したり触れたり知ることを十分楽しむことで知的好奇心が育まれることや、感じたこと、経験したことを自分なりに表現することを大切にしている。子どもが言葉で伝えようとしている姿を受け止めて言葉を育み、絵画や制作、歌やリズム、様々なごっこ遊びなど個々の子どもが感じたことを様々な方法で自由に表現できるようにしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>年間計画をもとに様々な行事を行い、子どもの多様な経験に繋げている</p> <p>園は年間行事予定表を作成し子どもが季節を感じることや日本の伝統文化を知ること、園内では経験できないことや地域資源の活用、子どもの興味や関心に合わせてみんなで作り上げる行事、保護者参加の行事など子どもの多様な経験に繋がる様々な行事に計画的に取り組んでいる。季節や日本の伝統文化に触れる行事では行事の意味を知らせるとともに装飾や準備を子どもと行い玄関に飾って親子で見る機会を作っている。行事のねらいや目的を明確にして子どもの様子に合わせて内容を検討し子どもが興味を持ち期待して参加できるようにしている。</p> <p>子ども同士が目的に向かって協力し合いやり遂げた喜びを感じることを大切にしている</p> <p>子どもが見つけた楽しいことや興味のあることがクラスの遊びとなり、様々に広がって園全体で楽しむ行事へ発展している。5歳児が始めたお店屋さんごっこは商店街ごっこになり、子どもがやりたいと思ったことをもとに寿司屋、ピザ屋など様々なお店作り、異年齢の子どもたちや職員を招待する遊びへと広がっている。友だちとイメージを共有し目的に向かって協力すること、トラブルを自分たちで考えて解決することは仲間と一緒に楽しむ楽しさや達成感を感じる姿となり、小さいクラスのあこがれとなって他クラスの遊びへと広がっている。</p> <p>行事への取組や成長していく様子を保護者に伝え理解や共感が得られるようにしている</p> <p>園は年間行事予定表を配布して行事のねらいを保護者に知らせている。各行事のねらいやクラスの思いはクラスだよりに子どもの様子と共に記載して伝えるようにし、結果だけでなく、過程を大切に個々の様子を具体的に保護者に伝えている。取り組んでいる様子やできるようになったことなどをタイムリーに伝えることで保護者と子どもの成長を喜び会える機会を作っている。外国籍の保護者や配慮が必要な家庭には子どもの姿を丁寧に伝えると共に時間や持ち物、内容についてわかりやすく伝えることに努め理解や共感が得られるようにしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもがゆっくり安心して過ごせる環境作りを行っている</p> <p>長時間にわたる子どもの保育は、発達過程や生活リズム、心身の状態に十分に配慮し、保育内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携などを指導計画に位置付け、子どもが安心して過ごせるようにしている。年間指導計画で年齢における配慮事項を確認し、子どもの疲れや一日の経過を考慮した保育に努めている。日々子どもの様子を職員間で共有し子どもが安心して過ごせるよう固定した延長保育職員を配置している。寝転べるスペースや柔らかいクッションを用意しゆっくり一人遊びができる場所を作るなど子どもの様子に合わせて環境作りを行っている。</p> <p>合同保育の時間帯でも子どもが自分の好きな遊びを楽しめるようにしている</p> <p>合同保育の時間帯でも日中からの保育の継続を大切に、子どもの申し出に応じて日中に遊んでいた遊びの続きができるようにしている。パズルやボードゲーム、折り紙、お絵描きなど自分の遊びをじっくり楽しめる環境を整え、朝・夕保育時間用の遊具ワゴンを用意しクラスの遊具以外のものも選んで遊べるようにしている。子どもの様子に合わせて休息や水分補給を取り入れ、降園まで安心して楽しく過ごせるようにしている。保護者への連絡事項は連絡ノートを使用して連絡漏れがないようにし、一日の様子を伝えることで子どもと保護者の安心に繋げている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>メニューや味付け、環境などを工夫し、子どもが楽しく食べられるようにしている</p> <p>園は子どもが楽しく食べることを大切に様々な工夫のもと子どもの食べる意欲を育んでいる。足台や背宛を使用して姿勢の保持ができるようにし、保育士も一緒に食事をすることで楽しさや食べる喜びを共感している。区共通の献立を使用しているが、行事の時には栄養士や調理師と相談して園独自の献立を作り、こいのぼりハンバーグや遠足のランチボックスなど子どもが喜ぶ特別なメニューを作っている。給食会議を行って献立の振り返りや食育予定、行事食献立確認を行い子どもが食に関心を持ち楽しく食べられる工夫を行っている。</p> <p>子どもの状況や文化の違いなど多様性に対応する仕組みを整えている</p> <p>アレルギーのある子どもや文化の違いによる宗教食が必要な子どもへの対応はマニュアルに沿って保護者と確認を行っている。宗教食は食材によって除去・代替・持参の対応を取り、アレルギーのある子どもはアレルギー対応マニュアルで決められた書式・手順を確認し医師が記載した生活管理指導表をもとに安全に食事がとれる仕組みを整えている。入園したばかりの1歳児や怪我のある子どもには小さく切ったり柔らかくしたりなど子どもの様子に合わせた対応をしている。急な体調不良の際には、園長・副園長・栄養士・担任で相談し状態に応じ対応している。</p> <p>様々な食育を通して子どもが食に関心を持ち食べる力の基礎が育つよう取り組んでいる</p> <p>園は食育計画を作成し野菜の栽培や食材に触れる体験を通して食への関心を広げ、自分で育てた野菜を食べることで意欲やおいしく食べる経験に繋がるようにしている。玄関に毎日給食サンプルを展示し、給食に使った食材を置き実際に食材に触れることができるようにしている。ひじきや切り干し大根、冬瓜、ウドなど様々なものを展示することで親子の会話が生まれ、家庭の食育にも繋がっている。子どもに人気のメニューのレシピを置くことで保護者が選んで持ちかえり家庭で作る様子が見られるなど家庭と共に食べる力の基礎が育めるよう取り組んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>身体を使ってたくさん遊び、子どもが自身の体調や健康に関心が持てるようにしている</p> <p>戸外遊びや運動遊び、散歩などを各年齢に合わせて計画的に保育に取り入れ、体力づくりや運動能力の向上を図っている。個々の子どもの発達に合わせた運動遊びを用意し、遊びを通して危険回避能力が育つようにしている。自分の体調について言葉で伝えられるよう子どもの話を丁寧に聞くことに努め、言葉で伝える方法を知らせている。1歳児園支援看護師に協力依頼し、3～5歳児に健康教育を行っている。手洗い・うがいの仕方・体の仕組み・視力検査など実際に体験できる内容を計画し、健康に対する興味関心を図っている。</p> <p>医師や家庭と連携し、個別の状況に応じて医療的対応の取れる体制を整えている</p> <p>子どもの既往症や疾患については一覧表を作成し職員が把握できるようにしている。アレルギーのある子どもへの対応は個別ファイルを作成し情報や書類を一括して取りまとめている。主治医の指示により与薬が必要な子どもについては書類を作成しアレルギー緊急薬や抗けいれん薬など子どもの状況に応じた薬を預かり緊急時に対応できるようにしている。定期的に医師が経過を診ている子どもは受診結果や医師の指示をもとに園での対応方法を保護者と確認している。保護者の連絡先など緊急時に必要な情報の置き場所を決め、すぐ取り出せるよう管理している。</p> <p>保護者と情報を共有して連携を図り子どもの健康が維持できるようにしている</p> <p>連絡帳や健康チェックカードを使用して保護者と子どもの健康状態を確認している。休み明けの日には健康状態を丁寧に聞き取り、普段と様子が違う時は子どもの状態に応じて迅速に対応ができるよう保護者とその日の状況を確認している。感染症発生時には保育アプリを使用した情報配信や掲示を行い保護者に注意喚起している。感染症に罹患した際は保育園に報告してもらい、医師からの指示を確認している。「健やか子育てだより」を配信し季節や時期に応じて必要な子どもの健康に関わる情報を保護者に伝え子どもの健康維持が図れるようにしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の状況に応じた柔軟な対応に努め、安心して子育てできるよう支援している</p> <p>保護者が安心して子育てできるように、園での子どもの様子を伝えることを大切にしている。コミュニケーションを図る中、保護者が気軽に相談できる雰囲気を作り、一緒に考える姿勢を持つようになっている。保護者の事情や就労の状況に応じた対応については園長・副園長が窓口になり、保護者の気持ちに寄り添った対応に努めている。育児サポートなどの情報を必要に合わせて保護者に提供し、育児不安や支援を必要とする家庭については保健師や子ども家庭支援センター、児童相談所と連携し支援体制を整えている。</p> <p>保護者との信頼関係を大切に育み、子育てを支え合う保護者同士の交流機会を作っている</p> <p>連絡帳やクラスだより、日々の送迎時の会話などで子どもの姿を具体的に伝え、成長の喜びを家庭と園で共感しあうことを大切にしている。些細なことでも相談できる安心感が持てるようにし、保護者と職員の信頼関係を大切に育てている。運動会や保育参加など保護者が楽しみながら親睦を深めたり、親子交流ができたりする活動を取り入れ、保護者同士が関わる機会を作っている。保護者会で保護者同士が意見交換する場を設けることや、困っていることや悩みについて情報交換するボードをクラス内に設置するなど、子育てを支え合う仕組みを作っている。</p> <p>保護者会、個人面談、保育参加などを通して保護者の養育力向上を図っている</p> <p>園は保護者会を子どもの育ちで大切なことを伝える場としており、クラス保育についてや子どもの発達過程についてパワーポイントを使用して分かりやすく保護者に伝えている。個人面談では、子どもの様子を共有すると共に、育児についての悩みや園への要望などを聞くようにしている。保育参観や参加を行い、保育の様子を見ることや体験ができるようにし、子どもの姿と保育者の関わりから子育てのヒントが得られるようにしている。掲示やおたよりなどで子育てに関する講演会やイベントなどの情報を提供し、保護者の養育力向上が図れるようにしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>地域の様々な資源を活用して子どもが多様な経験を持てるようにしている</p> <p>園は地域資源を活用して子どもがいろいろな経験を持つことに取り組んでいる。5歳児は図書館でのお話会や本を借りる経験をしている。近隣商店街の花屋や八百屋での買い物やホームセンターでの買い物体験など社会の仕組みを知る経験となっている。公共施設の使い方や振る舞い方を知らせ、地域の中で子どもが育つことを大切にしている。消防署と連携を図り、消防車に乗せてもらい、起震車訓練に参加している。散歩に出かけ、土手の斜面のほりや様々な自然に触れること、交通ルールを学ぶなど園ではできない多様な経験が持てるようにしている。</p> <p>子育て支援や小学校との連携を通して地域の子ども同士が交流する場を設けている</p> <p>地域の子ども同士が関われるよう、子育て支援活動のお楽しみ会や園庭開放、育児応援券の利用などで交流の場を設けている。5歳児は小学校の学芸会などの行事に参加し、小学生や教職員と交流することや小学校を知る機会となるようにしている。近隣の方や地域の方に職員が積極的に挨拶する姿を見て、子どもたちも真似をして挨拶を行っており、子どもの姿に笑顔で手を振ってくれるなど良好な関係を築いている。地域の方との交流を通して、様々な人が暮らしを知ることを知りきっかけ作りをしていきたいと園は考えている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	園内研修の内容を充実させ、質の向上及びチームワークの促進に取り組んでいる	
内容①	園は、園内研修の内容が充実するように園内研修プロジェクトのメンバーやクラスリーダー、フリー職員、副園長などと話し合い決めている。また、園内研修の目的として、職員間で対話をする機会にもしている。そのため、テーマによっては、事前に自分の意見をまとめてから参加し活発に意見交換ができるようにしている。さらに、始める前にアイスブレイクの手法を取り入れ、研修に参加する職員の緊張を和らげ、意見交換がしやすい環境を構築し、チームワークの促進にも繋げている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	5歳児は、就学に向けて親子で頑張りたいことを書面で共有している	
内容②	園の方針のひとつに「保護者の方とより良い関係を築きながら、子育てに楽しさやうれしさを感じられる支援をします」を掲げ、保護者との信頼関係を築き、保護者の状況に配慮した個別の支援など、様々な保護者支援に取り組んでいる。保護者会ではパワーポイントを活用してクラスの保育をわかりやすく発信するとともに、子どもの発達の過程などを伝えている。5歳児クラスでは、就学に向けて親子で頑張りたいことを書面で共有している。掲げた目標を書面で共有することで、折りに触れて園と保護者、子どもで目標を確認している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが豊かに育つ環境を考える取組の中で園として何が大切かを問い、常に「子どもにとって」を核とし継承していくことに取り組んでいる
	内容	園は子どもが豊かに育つ環境を考察する中で他園の環境づくりの発表をもとに、子どもが水を使って遊ぶ意味について1年をかけて話し合う取組を行っている。それまで年間を通して水を使って遊ぶ環境ではなかったことを振り返り、一年中水を使って遊べる環境を作ることで子どもが自分で考え主体的に遊ぶことを子どもの姿から学んでいる。子どもの遊びの変化は新たな環境作りに繋がり、子どもが自由に遊ぶことの大切さや環境の豊かさを追求する保育の在り方に繋がっている。園として何が大切かを問うこの取組は園の質の向上を図るものとなっている。
2	タイトル	様々な食育への取組を通して子どもが食に関心を持つことを大切にし家庭との連携のもと豊かな食生活の基礎となる力を育てている
	内容	園は、家庭と協力し合い子どもの健やかな育ちを支援することを園運営の根幹におき、生きる力の基礎となる子どもの食する力が育つよう様々な食育を行っている。野菜を栽培して食する経験や園庭の夏みかんのジャム作り、クッキング保育などで子どもの食に対する関心を育てている。毎日の給食サンプルの掲示やその日使用した野菜、水に戻す前と後の乾物なども展示し、実際に触れることで親子の関心に繋げている。子どもに人気のレシピ6種類を常時10部ずつ用意し好評を得るなど家庭との連携を大切に、豊かな食生活の基礎となる力を育てている。
3	タイトル	保護者会を子ども理解・保育理解・保護者同士の交流機会とし保護者のニーズに応える中、みんなで支え合い子育てを楽しむ取組に繋げている
	内容	園は保護者会を子ども理解、保育理解に繋がる大切な機会として捉えパワーポイントを使った子どもの姿を通して発達や育ち一年の保育について保護者にわかりやすく伝えている。保護者同士の交流機会となるよう内容を工夫し、得た保護者の声を子育てにおける大切な情報として保護者同士で支え合い子育てが楽しめる取組へと繋げている。日々の悩みや疑問の共有、情報交換する掲示ボード「みんなどうしてる?の木」は保護者が身近な疑問を遣り取りするものとなっており、園理念「子どもも大人もほっとでき、支えになれる保育園」を表す取組となっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	リスクマネジメントの観点からヒヤリハット情報を増やし、分析・評価しやすい集計方法など、より一層の取組に期待したい
	内容	園運営におけるリスクマネジメントとして、子どもと職員の命と健康を守ること、子どもの最善の利益を守ることが大切という考えのもと、各種マニュアルの整備や訓練などに取り組んでいる。怪我に対しては、怪我報告書を作成し、状況や原因から対策を講じて再発防止に取り組んでいる。一方でヒヤットしたこと、ハットしたことの報告については件数が多くない現状があるため、リスクマネジメントの観点や意図の共有のためにも、より多くのヒヤリハットが出てくるような工夫や分析・評価しやすい集計方法など、より一層の取組に期待したい。
2	タイトル	長期構想による期限のある定量化した目標を掲げ、PDCAの有効性をより高めながら取り組んでいくことに期待したい
	内容	園は、区の保育理念、方針の具現化に向け、園の長期的な課題や目標を実現するために3ヶ年の中期計画を策定し、園運営に取り組んでいる。今後は更に、園が目指す姿に向けた課題の現状及び目標を測る指標を示し、どのようなことをどのくらいの期間を設けて実施していくかについての明示に期待したい。事業所の重要課題に対する組織的な活動の達成度合いを評価し、必要に応じて見直ししながらPDCAサイクルの有効性をより高めていくことに期待したい。
3	タイトル	園が構築している地域との関わりを基盤とし、子どもが地域の一員として育っていく為の更なる地域資源の活用に期待する
	内容	園は地域の施設や暮らしている人と関わることを実体験として経験することで、自分も地域の一員だと感じて欲しいと願い、様々な取組を行っている。地域の豊かな自然を活用し虫や植物と出会うことや図書館利用、買い物体験、消防署との連携、小学校との交流など子どもが園では経験できない多様な経験が持てるようにしている。子どもが自分のいる地域を知り地域の中で育つことはとても大切なことである。子どもが地域に愛され地域の中で豊かに育つよう、地域住民との交流や世代間交流、地域探訪の散歩など更なる地域資源の積極的な活用に期待したい。